

防災 倉庫

“自助”から “共助”のリーダーに

はたけ やま れい ら せい ら
畠山玲来さん、星来さん

(広崎3町内) - 防災士

写真は左から星来さん、玲来さん



姉妹で 防災士資格を取得

町の防災士連絡協議会に所属している2人。「熊本地震の時、高校1年だった私は、自分の身を守る『自助』しかできませんでした。避難所などで運営を手伝う同年代の人を見て、私も『共助』ができる人になりたいと思ったんです」と防災士を目指したきっかけを語るのは、姉の玲来さん。大学で講義を受けた後、救命講習や試験を経て、19歳で防災士資格を取得。そんな姉の影響を受けた妹の星来さんも、令和元年11月に町が初めて開催した、防災士養成講座に最年少で参加し、17歳で資格を取得しました。

できることから 少しずつ

畠山さん姉妹の両親は、2人が高校を卒業するまでの間、災害発生時に手分けしてそれぞれの学校に迎えに行くと決めていたそうです。現在自宅では、家族全員分の食料や懐中電灯など、非常持ち出し品をまとめたリュックサックを寝室に常備。そうした万全の備えも、防災士としての知識と意識が生かされているようです。

また、昨年は、町が実施した感染症対策避難所運営訓練に姉妹そろって参加。「資格を持っているだけでは何もできない。訓練で実際に経験することができたので、今後、避難所運営に携わることがあれば、積極的に活動したいと思っています」と星来さん。「各地で起こる災害を見聞きしても、自分の家だけは大丈夫だと思っている人は少なくありません。ハザードマップを活用し、多くの人に災害の危険性を知ってもらおうお手伝いできたらと思います」と玲来さん。そんな、若き防災士姉妹の今後の活躍に期待が寄せられます。

- 1 避難広場に設置されている「かまどベンチ」。災害時のかまどとしての使い方を2人で確認
- 2 ハザードマップで危険箇所を事前に把握
- 3 地域の自主防災組織にも所属